

平成二十九年 第十一期くまもと俳句ポスト

第十一期開函

俳誌「霏霏」主宰 星永 文夫 選

特選

肥後椿八雲の「時」を伝え継ぐ

北海道札幌市

水野亜希

【講評】

小泉八雲がこの地の五高に講師として赴任して来たのは明治二十四年。滞在したのはわずか二年余だが、その間、学生への〈薫陶〉はもちろん、『知られぬ日本の面影』等の著作を残すなど、その業績は今もこの地で語り継がれている。作者はそのすべてを含めて「八雲の『時』』という。これは今も残る小泉八雲熊本旧居に佇^たつての感懐であろう。肥後六花の一〈肥後椿〉にその面影を重ねて。

わが輩通り賞

子規の伊予漱石の肥後夏蜜柑

熊本県熊本市

鶴田信吾

入選

葉桜や地震なの障りの残る肥後

大阪府泉大津市

山田佳音

菜の花や特急通過の田原坂

長崎県諫早市

麻生勝行

漱石も訪ひし古書店枇杷の花

熊本県熊本市

森本尚子

佳作

戦いの義は朽ちはてて露と消え

福岡県久留米市

山口洋

田原坂さつきの果ての弾の跡

佐賀県基山町

明石穰

風光る汀女が句碑の磨かれて

熊本県熊本市

野崎一雄

漱石の句碑のほとりや犬ふぐり

熊本県熊本市

阿部章

御廟所守る詰所に匂ふ蚊遣香

熊本県熊本市

山崎綾子

カルデラは大水瓶や男梅雨

熊本県熊本市

佐藤誠吾

梅雨湿りたる漱石の像を撫づ

熊本県熊本市

坂口美穂子

本妙寺かげろふの中僧の声

熊本県熊本市

菊池一郎

弾痕のあと生生し花の冷え

福岡県福岡市

山下美知子

記念館床をよちよち冬の蠅

熊本県熊本市

末次直人

投句総数

一九九句

市外

九七句

市内

一〇二句

開函日 平成二十九年六月三十日